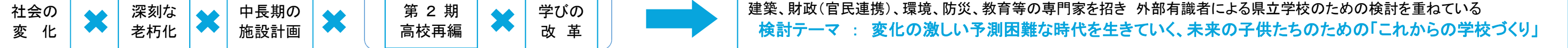


～ 県立学校学習空間デザイン検討委員会 中間報告書(概要) ～

2019. 5.28 長野県教育委員会



学校施設整備の検討が求められる背景

- 1 施設老朽化は喫緊の課題
約半数が昭和40～50年代に建設、築後30年以上経過約72% 築後40年以上経過約32%
これまで大規模な改修がないまま、現在も使い続けられている。
- 2 施設整備の計画
老朽化が著しい校舎の改修費用に加え、第2期高校再編計画に伴う改築費用
財政支出平準化、費用削減を図るため、「長野県FM基本計画」に基づく中長期的計画必要
- 3 学びの改革 「一斉授業」から「探究的な学び」へシフト
「主体的学習」「対話的な学習」「深い学び」を推進するための空間整備

社会の変化と県立学校の現状と課題

1 社会の変化

(1) 社会の多様化

現状

- ・情報化社会の進展
- ・グローバル化、ポータレス化

課題

生徒が主体的に活動し、自ら学ぶことが容易となる多様な学習空間の整備

(2) 生活スタイルの変化

- ・家庭におけるトイレの洋式化
- ・ " 空調設備の普及
- ・生活住環境の性能向上

- ・洋式トイレの整備
- ・エアコンの設置
- ・断熱性の向上、快適な空間の普及

2 県立学校を取り巻く状況

(1) 生徒数の減少

現状

| | |
|----------------|-------------------|
| 中学校卒業(見込)者数の推移 | |
| 1990年 | 34,699人(ピーク) |
| 2017年 | 20,754人(59.8%) |
| 2030年 | 16,300人(47.0%)見込み |

課題

- ・新しい形の学びの場の創造
- ・再編統合(規模・配置の見直し)
- ・学校としての基本的な機能確保

(2) 施設の老朽化

- ・県有施設全体の約4割が県立学校
- ・耐震補強を優先的に推進
- ・事後的な修繕を中心に施設を維持

- ・施設の総量縮小
- ・計画的な施設の建替え等
- ・将来を見据えた保全予防費用へ移行

3 財政状況

現状

【県全体】
・建替費用等、今後40年で1兆4000億円(年間350億)の試算

課題

- ・築後30年以上が7割、40年以上が3割
- ・学習環境向上のための改修の遅れ
- ・予防的な修繕・改修工事が必要

検討委員会での議論 (検討項目と主な検討内容)

1 共通項目

| | |
|--------------|---|
| ア 快適な空間 | 学校を快適で居心地が良い場所に。太陽光や自然風により、季節や自然を感じられる空間 |
| イ 多用途な空間 | 少子化を踏まえ多用途に使えるフレキシブルラーニングエリア等を設置、空間の重ね使いで効率化 |
| ウ 空間の有機的つながり | 教科の枠を超えた融合的な学びを。図書館を中心としてメディアセンターを設置、各教室とも連携 |
| エ 基本性能 | 生活空間としての空調機能、断熱性能の向上等。可変性を考慮し、将来を見据えた構造 |
| オ 改築・改修 | 改修の際にも、構造的な見直しを行うことにより教育面・生活面の機能・快適性の向上 |
| カ 空間の質・機能美 | 学校に求められる本質的な意味や機能、地域の想い等を検証し、総合的に考え抜かれた質の高い空間 |

2 空間デザイン

| | |
|--------|---|
| ア 学習空間 | 知識を蓄える学びから、能動的な活動により理解を深める「探究的な学び」を支援する空間 ⇒ 調べる、グループワーク、発表する、これらの活動に応じた空間の整備と、これらを密接に連携させる配置 |
| イ 生活空間 | 学習空間と切り離し、生徒同士の交流が生まれる空間とゆとりと快適性に配慮した空間 ⇒ ロッカースペース、ラウンジ、ランチルーム、ギャラリー等の設置、トイレの衛生的なデザイン |
| ウ 執務空間 | 教員間の情報共有・意見交換を容易にし、教員が一堂に会する空間。生徒が相談しやすく自主的な学習を手助け ⇒ 教科の枠を超えた質の高い授業を展開し、生徒の創造的な活動を支援 |

3 学校施設に求められる機能と適正な規模

| | |
|--------------------------------|---|
| ア 少子化が進む中で地域施設として共同利用 周辺施設との関係 | 地域の交流の場としての学校、地域の必要性に配慮した複合化、周辺の学校間での体育施設の共有化、校舎の減築 |
| イ 防災拠点 | 生徒の避難場所、近隣住民の避難場所として、避難者想定数の把握と要配慮者の利用を踏まえて計画 |

4 導入手法(PPP、PFI等) 【整備部会において、今後検討予定】

生徒の減少率や地域の特性等を十分に考慮した整備
施設の複合化、共有化とともに一時的な財政負担の軽減を図るため、民間施設、資金も活用できるよう検討
ア 施設の複合化 イ 共有化 ウ 管理委託 エ 利用料の負担(他施設を賃借) オ PPP, PFI

5 維持管理

| | |
|-----------|--|
| ア 維持管理 | 将来発生する改修・修繕と日常的な維持管理の費用を考慮した施設づくり |
| イ 省エネルギー化 | 長野県の実環境のメリットを積極的に活かした施設づくり(太陽光、夜間冷気の換気、地熱、風等の活用) |

6 全体計画・個別計画策定

マスタープラン(学びの改革との連携)、ビジョン(特色、地域性、進学・職能校等)、モデル(具体的なモデル)の明確化

7 学校づくりのスキームの構築

ア 計画の実現・予算確保(関係部局との情報共有) イ 具体的な整備手法(プロポーザル等) ウ 整備後の学校運営

○他県での県立学校の先進事例 (宮城県迫桜高等学校、福島県立会津学鳳中高等学校)



採光の工夫(北側天窗)

動線上のラウンジ

メディアセンター(図書館+情報室)

ロッカースペース+ラウンジ

大講義室(集団討論+発表)